

平成 16 年 3 月期 第 3 四半期業績の概況 (連結)

平成 16 年 2 月 19 日

上場会社名 トランス・コスモス株式会社

(コード番号 9715 東証第 1 部)

(URL <http://www.trans-cosmos.co.jp/>)

代表者 代表取締役社長兼 COO 奥田 昌孝

問合せ先 経理財務本部長 荒木 正敏

(TEL:(03)- 4363- 1111)

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 無

認識の方法との相違の有無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

2. 平成 16 年 3 月期第 3 四半期の業績概況 (平成 15 年 4 月 1 日 ~ 平成 15 年 12 月 31 日)

(1) 経営成績 (連結) の進捗状況

(注)金額は百万円未満を切り捨て

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
16 年 3 月期第 3 四半期	56,993	1,486	633	890
(参考) 15 年 3 月期	71,072 1.2	8,298	9,954	9,898

	1 株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益
	円 銭	円 銭
16 年 3 月期第 3 四半期	37.09	
(参考) 15 年 3 月期	405.75	

(注) 四半期業績開示は当第 1 四半期より実施しておりますので、前年同四半期の実績及び増減率につきましては、記載しておりません。

売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同期比増減率であります。

[経営成績 (連結) の進捗状況に関する定性的情報等]

当第 3 四半期までのわが国の経済は、イラク問題や S A R S の影響による国際情勢不安にはじまりましたが、輸出や設備投資が持ち直し、企業業績の改善が見込まれ、景気は概ね回復基調にあるものの、厳しい雇用・所得環境の影響もあり個人消費は依然力強さを欠いたまま推移しております。

情報サービス事業分野においては、長期化する日本経済の低迷を受け、お客様企業のコスト削減ニーズも高く、受注競争は激化しております。しかしながら当社のマーケティングチェーンマネジメントサービス事業は付加価値の高い新たなサービスやビジネスプランを積極的にご提案し、コールセンター/コンタクトセンター、Web マーケティング関連の新規営業案件を獲得した結果、引き続き売上高を拡大することができました。開発サービス事業においても、自動車産業などお客様企業の設計支援業務案件、システム開発の受注が好調であったことから売上高は増加しました。また、サポートデスクサービス事業は企業内 IT システム、業務システムなどの運用サポートデスクサービスや、業務支援、社員教育、IT 資産管理などのソリューションサービスに加え、今期から本格的に展開した ERP の運用サービスを行うアプリケーションマネジメントサービスにおいても受注を獲得し、売上高を拡大することができました。

ベンチャーキャピタル事業分野においては、一部銘柄の売却から売上総利益は計上したものの、営業費用を賄うには至らず、営業損失を計上することとなりました。

以上のような状況のもと、当第 3 四半期の業績は、売上高 56,993 百万円、営業利益 1,486 百万円、経常利益 633 百万円、四半期純損失 890 百万円となりました。なお、四半期純損失となった主な要因は、昨年後半からの円高の影響で営業外費用に為替差損 992 百万円を計上したこと、特別損失に本社移転費用 541 百万円を計上したことによるものであります。

(2) 財政状態 (連結) の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1 株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16 年 3 月期第 3 四半期	61,955	46,807	75.6	2,016.91
(参考) 15 年 3 月期	64,760	49,549	76.5	2,031.03

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 四半期末(期末)
16年3月期第3四半期	百万円 6,375	百万円 799	百万円 3,228	百万円 16,960
(参考)15年3月期	939	498	1,162	14,836

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

当第3四半期末の総資産は、61,955百万円となり、前期末に比較して2,805百万円減少いたしました。また、株主資本は46,807百万円となり、前期末に比較して2,742百万円減少いたしました。この結果、株主資本比率は前期末の76.5%から75.6%になりました。

キャッシュ・フローの状況

当第3四半期の連結キャッシュ・フローの状況は、以下のとおりであります。

営業活動におけるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純損失461百万円であった一方、法人税等の還付額4,187百万円及び減価償却費、為替差損等の非資金取引項目もあったことにより、全体では6,375百万円の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形・無形固定資産の取得による支出1,082百万円などにより、799百万円の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得による支出3,133百万円などにより、3,228百万円の減少となりました。

以上の結果、当第3四半期末における現金及び現金同等物の残高は、16,960百万円となり、前期末に比べ2,124百万円の増加となりました。

(参考)四半期個別経営成績等の概況(平成15年4月1日～平成15年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
16年3月期第3四半期	百万円 47,437	百万円 2,983	百万円 2,985	百万円 865

	総資産	株主資本
16年3月期第3四半期	百万円 60,366	百万円 49,950

3.平成16年3月期の連結業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり 予想当期純利益
通 期	百万円 76,000	百万円 2,850	百万円 800	円 銭 34.47

[業績予想に関する定性的情報等]

第4四半期に入り、わが国の経済環境は、株価の上昇や米国経済の好調から緩やかに回復基調に向かうと期待される一方、今後の株価・円高傾向や海外経済の動向には引き続き留意する必要があり、依然として先行き不透明感は拭いきれず、今後も予断を許さない状況が続くものと思われま。

このような状況の中で、当社の第3四半期業績は、円高の影響による為替差損を除き、おおむね計画どおり推移しており、通期の業績につきましては、平成15年9月中間決算発表時に公表いたしました計画どおりといたします。

(参考)平成16年3月期の個別業績予想(平成15年4月1日～平成16年3月31日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1株当たり年間予想配当金		
				中間	期末	
通 期	百万円 62,000	百万円 4,100	百万円 1,600	円 銭	円 銭 30.00	円 銭 30.00

なお、上記の予想数値は、業界の動向、お客様企業の状況、その他現時点で入手可能な情報による判断及び仮定により算出しております。従いまして、予想に内在する不確定要因や今後の事業運営における内外の状況変化等により、実際の数値と異なる場合がありますのでご承知おきください。

以 上